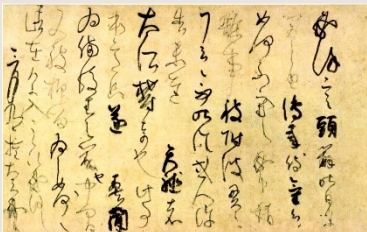




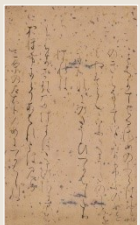
ふくやま書道美術館は、福山市出身の書家である栗原蘆水が長年にわたり収集した中国明清時代の書画篆刻や文房具などの貴重なコレクションを受贈し、2003年8月に開館しました。栗原コレクションは、日本・中国の書画をはじめ、篆刻作品や墨・硯・筆・印材・筆筒・水滴などの文房具で構成されています。また福山市出身で、戦後のかな書道界を牽引した桑田笹舟のご遺族からは、平安古筆を含む桑田家コレクションの寄贈を受けました。このほか、福山ゆかりの書家の遺墨など多彩な作品を所蔵しており、現在は所蔵品展および教育普及事業を開催しています。

日本の書画

奈良・平安時代の貴重な古筆から、現代の代表的な作家まで幅広い年代の作品を収蔵しており、日本の書の変遷を辿ることができます。



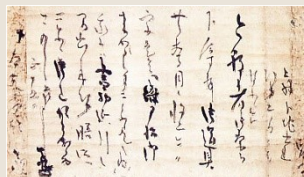
重要美術品 藤原佐理
《書状「頭弁帖」》



重要美術品 伝藤原定類
《烏丸切》



本阿弥光悦《書状》



本阿弥光悦《書状》

中国の書画

董其昌・張璠図・王鐸・傅山・吳昌碩など、明代中期から現代(2000年頃)までの作家の作品を収蔵しています。



張即之《杜工部集断簡》



王鐸《瓊蕊蘆帖》



董其昌《草書七言二句軸》

文房至宝



硯《洮河綠石蘭亭硯》

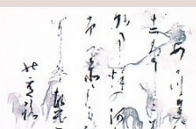


墨《春華秋實》

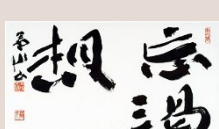


印材《田黃天然石》

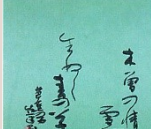
ふくやまゆかりの書家作品



桑田笹舟《あかつちは》



栗原蘆水《忘渴想》



宮本竹逯《木曾の情》

インフォメーション

ふくやま書道美術館

JR福山駅福山城口(北口)から西へ400m

〒720-0067 福山市西町二丁目4番3号

電話：084-925-9222 FAX：084-925-9223

URL：https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fukuyama-syodo/

E-mail：syodo@city.fukuyama.hiroshima.jp

駐車場：68台(所蔵品展観覧のお客様は1時間無料)

■休館日 月曜日(祝休日の場合開館、その翌日休館)、年末年始

■開館時間 午前9時30分～午後5時(時期により夜間開館あり)

■観覧料 所蔵品展/一般150円(120円)※()内は有料20名以上の団体料金 ※高校生以下無料



ふくやま美術館

JR福山駅福山城口(北口)から西へ400m

〒720-0067 福山市西町二丁目4番3号

電話：084-932-2345 FAX：084-932-2347

URL：https://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/fukuyama-museum/

E-mail：art@city.fukuyama.hiroshima.jp

駐車場：68台(特別展・所蔵品展観覧のお客様は1時間無料)

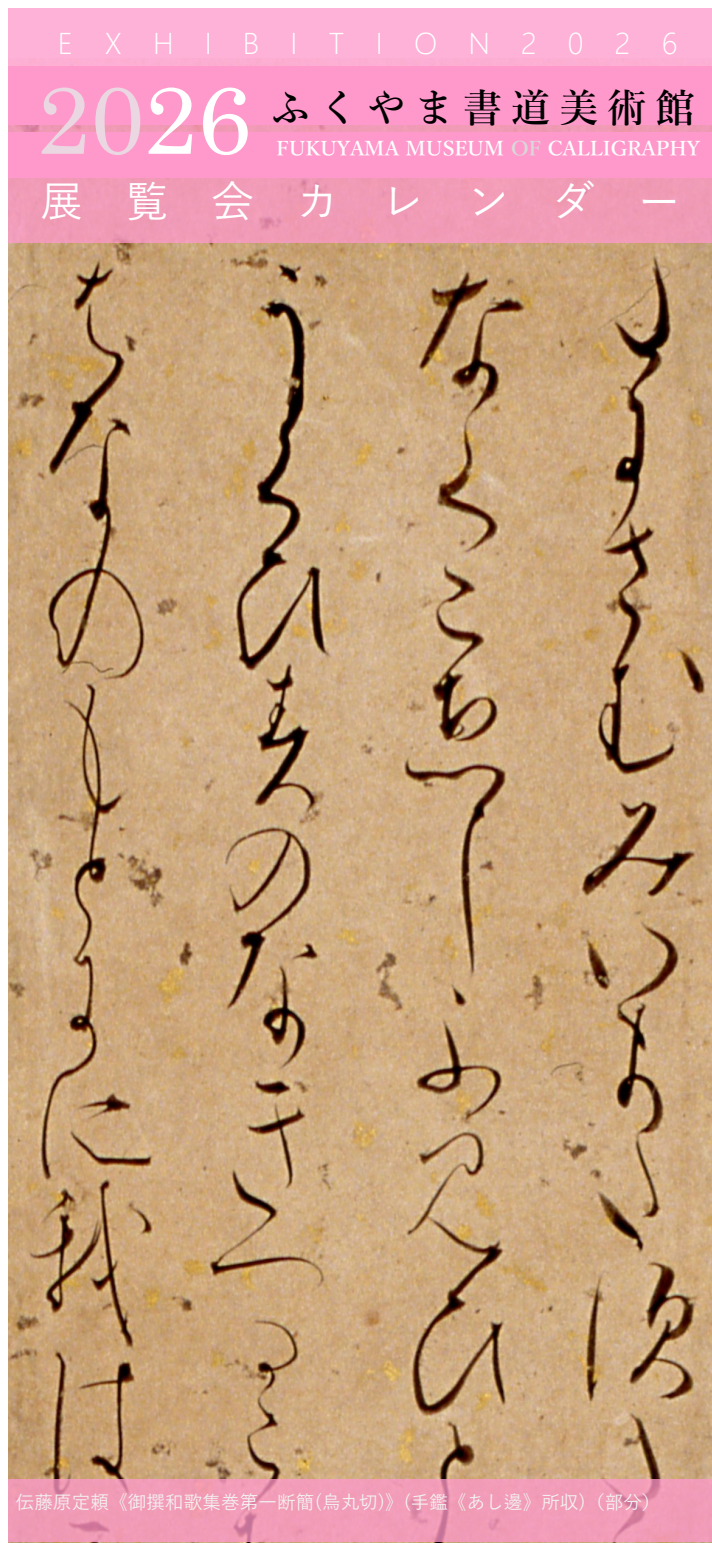
■休館日 月曜日(祝休日の場合開館、その翌日休館)、年末年始

■開館時間 午前9時30分～午後5時(時期により夜間開館あり)

■観覧料 所蔵品展/一般310円(250円)※()内は有料20名以上の団体料金 ※高校生以下無料 ※特別展の観覧料は別に定めます



山陽自動車道福山東インターから車で20分



伝藤原定類《御撰和歌集卷第一断簡(烏丸切)》(手鑑《あし邊》所収) (部分)

2026年度開催の所蔵品展

春の所蔵品展

「備後ゆかりの書家たち

—漢字—

4月3日(金)～5月6日(水・休)

夏の所蔵品展 I

「備後ゆかりの書家たち

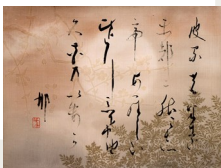
—かな—

5月12日(火)～6月13日(土)

ふくやまは「書のまち」といわれるように、漢字・かな・前衛書家が活躍する書が大変盛んなまちです。福山市名誉市民のかな書家桑田笹舟は、戦後まもなくから書の普及に尽力し現在の「書のまちふくやま」の礎を築きました。笹舟をはじめ笹舟の子弟たちは中央書壇で活躍するとともに、地元備後地方においても書家や教育者の育成に力を入れ、この地には漢字、かな、前衛の書家が数多く生まれていくことになりました。

本展では、所蔵品を中心に備後福山にゆかりのある書家を、前期では漢字書家、後期ではかな書家に分け紹介します。

桑田笹舟《春の夜を》



栗原蘆水《守・破・離》

冬の所蔵品展 II

「生誕160年 王一手の書画」

2027年2月12日(金)～3月28日(日)

清末民初に上海を中心に活躍した王一手は、実業家や書画家として名を残しました。生誕160年の節目に、彼が得意とした山水や人物、花卉図などの作品を一堂に会し、師の呉昌碩や、親交のあった趙子雲、王介籛らの作品もあわせて紹介します。



王一手《菊石図軸》



齊白石《老梅図軸》

夏の所蔵品展 II

「学校の先生 —中国書画にみる教育者の姿」

7月3日(金)～8月23日(日)

清代後半に活躍した齊白石や凌文淵、朱屺瞻らは書画篆刻などの分野において、自らの研究を深めるとともに、後世に向けての指導にも力を尽くしました。作家であるとともに教育者としても生涯をかけた人たちの作品を紹介します。

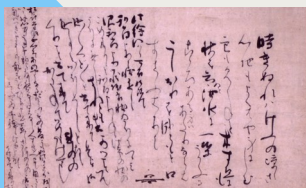


秋の所蔵品展 I

「茶掛けの書」

8月28日(金)～10月18日(日)

茶席の床の装飾として掛けられる軸「茶掛け」は、一期一会のその場所で亭主の思いを代弁する第一の道具とされてきました。本展では、鎌倉から江戸時代までの墨蹟や消息・古筆切など、茶席の掛け物として人々の間で珍重され喜ばれた書を中心に紹介します。

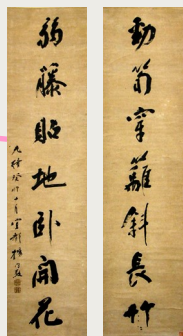


小堀遠州
《消息軸》

秋の所蔵品展 II

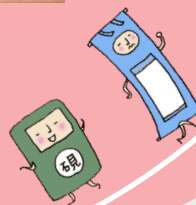
「楊守敬が来た
—日本近代書人たちのまなざし」

10月23日(金)～12月13日(日)



楊守敬《行書七言聯》

1880年、楊守敬の来日を機に、彼の携えてきた漢魏の碑法帖類に触れた当時の日本書家たちは衝撃を受けたといわれています。明治期における書の変革の姿を、楊守敬の作品とともに巖谷一六や中林梧竹、日下部鳴鶴らの作品を通して紹介します。



冬の所蔵品展 I

「学びたい書 —臨書するならコレ！」

12月24日(木)～2027年2月7日(日)

当館には書を学ぶ人に臨書していただきたい名品が数多くあります。日本の古典ならではの流麗、優美な仮名、中国のスケールの大きな漢字の名品の中から厳選して展示します。臨書への意欲を高めながらご覧いただき、文字の変化の面白さを味わっていただきます。



教育普及事業

第21回一緒にかく古代文字展

8月1日(土)～8月16日(日)

漢字の基となった古代文字を家族や友達と一緒にワークショップを行い、その作品を表装して展示します。



ETOをかく2027新春展

2027年1月2日(土)～1月17日(日)

2027年の干支「羊」を筆でかいた作品を募り、届けられたすべての作品を展示します。



第22回ふくやま書道美術館臨書展

2027年1月26日(火)～2月14日(日)

学生たちが書の表現を学ぶために、数々の古典の中から臨書(見て書く)した作品を募集し、優秀作品を展示します。

